

落札者決定基準

件名 仙台市市民センターホームページ・CMS 再構築及び運用保守等業務委託

仙台市

目次

1 選考方法.....	1
2 審査機関.....	1
3 落札者決定の方法.....	1
4 技術の評価方法.....	2
5 評価基準.....	5
6 提案書の審査方法.....	6

別紙 評価項目表

「仙台市市民センターホームページ・CMS 再構築及び運用保守等業務委託」（以下「本業務」という。）に当たり、以下に掲げる方法により、落札者を決定する。

1 選考方法

入札参加者に対し、総合評価一般競争入札により審査を実施したうえで落札者を決定する。

- (1) 本業務の入札参加者の資格に関する事項は入札公告のとおりとする。
- (2) 入札参加者の資格に関する手続きの詳細については、入札説明書のとおりとする。なお、入札説明書等の公開期間、公開方法は以下のとおりとする。

(a) 公開期間 令和 5 年 11 月 29 日から

(b) 公開方法 仙台市財政局契約課ホームページに掲載する。

<https://www.city.sendai.jp/buppin/jigyosha/keyaku/kekka/r5itaku/index.html>

2 審査機関

総合評価一般競争入札を実施するため、技術提案評価及び価格評価により審査を行い、落札者を選考するため、審査機関を設置する。

- (1) 本業務の技術的な審査については、関係職員による本業務に係る総合評価委員会（以下「委員会」という。）において実施する。
- (2) 委員会は、落札者決定基準の策定、技術提案書の評価及び落札者の選定について審査する。
- (3) 落札者決定基準を定めるに当たり留意すべき事項及び落札者の決定については、地方自治法施行令 167 条の 10 の 2 第 4 項及び第 5 項の規定により、必要に応じて学識経験を有する者の意見を聴くこととする。

3 落札者決定の方法

(1) 欠格事項

- (a) 次の要件のいずれかに該当する入札者は、落札者とししない。
 - (ア) 入札者の提案内容が仕様書で提示した要求要件を満たしていない者
 - (イ) 提案内容に記載すべき事項の全部又は一部が記載されていない者
 - (ウ) プレゼンテーションに応じない者
 - (エ) 費用見積書の金額が予定価格を上回る者
- (b) 上記(a)において落札者としなかったものを除く入札者の中から、価格評価点及び技術提案評価点の合計点（以下、「総合評価点」という。）が最も高い者を落札者として決定するものとする。

総合評価点 = 価格評価点 + 技術提案評価点

- (c) 総合評価点の最も高いものが 2 者以上あるとき（同点のとき）は、当該入札者にく

じを引かせ、くじにより決定した者を落札者とする。この場合において、当該応札者のうち出席しない者又はくじを引かない者があるときは、入札執行事務に関係のない職員にくじを引かせ落札者を決定する。

(2) 価格評価点及び技術提案評価点

- (a) 価格評価点を 3,000 点、技術提案評価点を 3,000 点とし、その合計である総合評価点については、6,000 点満点とする。
- (b) 価格評価点については、入札価格に応じ、次に示す算式により点数化するものとする。なお、この計算の結果生じた端数については、小数点以下第 1 位までを有効とし、小数点以下第 2 位を四捨五入するものとする。

$$\text{価格評価点} = \text{価格点の配分(3,000 点)} \times (1 - \text{入札価格/予定価格})$$

- (c) 技術提案評価点については、下記の「4 技術の評価方法」、「5 評価基準」、「6 提案書の審査方法」により、別紙「総合評価基準表」の評価項目ごとに評価し、評価項目ごとの点数配分に応じて得点を付与する。

(3) 入札者は、入札及び技術提案書提出後に、入札説明書・仕様書等の不知又は不明、技術提案書の記載事項の錯誤等を理由に異議を申し立てることはできない。

4 技術の評価方法

(1) 評価の概要

評価は提出された技術提案書に伴い提出された書類、費用見積書、デモサイトを基に行う。技術提案評価点は、操作性審査（200 点）と書面審査（2,800 点）に区分し、複数の評価者の合議により、以下の方法で得点を算出する。

(2) 操作性審査の概要

操作性審査では、当該システムを利用する職員が、実際のシステムを利用して、操作性を評価する。操作性審査の概要は、以下の通りである。

- ・審査員は、学習情報システムを担当する生涯学習支援センター職員他 3 名とする。
- ・上記 4 名が各々最大 32 点満点で操作性の評価を行い、合計の得点を満点（計 128 点）で除した値に対し、操作性審査の配点（200 点）を乗じた得点を与える。なお、この計算の結果生じた端数は切り捨てるものとする。

$$\text{操作性に対する得点} = 200 \text{ 点} \times (\text{合計の得点} / \text{満点 128 点})$$

(3) 操作性の審査の対象

操作性審査における対象は、次の通りである。なお、操作性審査はあくまでシステムの操作性を確認する目的であるため、一括登録を行うデータ等の形式については、デモンストレーション用のもので構わない。また審査対象となる機能の一部について、提案者が構築した既存ホームページ等において動作することを提示する方法も可とする。

対象業務	内容
・CMSでの講座、イベント情報の登録・承認 ・講座紹介ページの作成・閲覧	・市民センター主催講座の情報を登録する ・CMSで作成した講座情報を公開ウェブページに反映する
・ウェブ上での市民センター講座検索 ・講座のカレンダー形式での表示・検索	・イベントとして登録した講座を検索し、該当情報の掲載されたページを表示する ・カレンダー形式で講座情報を表示する

(4) 審査の観点

審査の観点は、次の4つである。

観点	内容
機能性	・主催講座情報の登録、案内ページの編集が効率的に行える工夫があるか。
画面の見やすさ	・画面レイアウトに一貫性があるか。 ・検索結果等の表示画面の見やすさが確保されているか。
情報の探しやすさ	・講座情報の検索が容易に行える工夫がなされているか。
操作方法のわかりやすさ	・操作性に優れ、マニュアルを熟読せずとも感覚的に操作できる工夫がされているか。

「(4) 審査の観点で示した4つの観点について、各審査員が「(3) 操作性審査の対象」の2業務を通じて以下の5段階の評価を行い、1人当たり32点満点で得点を付与する。全審査員の得点を合算後、「4-2-1 操作審査の概要」に示す方法により、操作性審査における評価点を算出する。

評価表

評価	配点	基準
S	4点	非常に優れている
A	3点	優れている
B	2点	少し優れている
C	1点	少し劣る
D	0点	劣る

観点

観点	講座情報の登録・作成	講座情報の検索・表示
機能性	0～4点	0～4点
画面の見やすさ	0～4点	0～4点
情報の探しやすさ	0～4点	0～4点
操作方法の分かりやすさ	0～4点	0～4点

※合計 32 点満点

(5) 操作性審査の留意事項

I. 操作性審査を実施する。詳細は以下の通りである。

- (a) 実施日 令和 6 年 3 月
- (b) 場所 仙台市生涯学習支援センター
- (c) 時間 30 分
- (d) 説明者 1 名又は 2 名の説明員を配置する。(事務毎に説明員を変えることは差し支えない)
- (e) 説明 各業務において、説明員がデモンストレーション端末の操作方法を簡単に説明したうえで、操作性審査を行う職員が実際に利用し、評価を行う。
- (f) 使用機器等 提案者は、操作性審査の対象とする業務内容に対応できるようにデモンストレーション用の環境を構築すること。

(6) 書面審査

I. 書面審査（技術提案書審査）の概要

- (a) 技術提案書には、別冊「仕様書」及び別紙「総合評価基準表」に基づき、評価細目についての認識、具体的な実現方法及びその手法の選択理由等を記載すること。これによらない項目及び内容等の記載については、評価しないものとする。
- (b) 様式は、表紙については、別冊「技術提案書作成要領」様式 1「技術提案書表紙」のとおりとする。提案内容における様式は特に設けない。(「技術提案書作成要領」は、仙台市財政局契約課ホームページに掲載する。)
- (c) 原則として別紙「総合評価基準表」の評価項目・細目が明らかになるように記載すること。
- (d) 必要な資料が添付されていない場合、技術提案書そのものを評価しないものとする。この場合において入札者は、必要な書類を添付しない理由を不知又は不明、錯誤等として苦情を申し立てることはできない。

II. 書類審査の留意事項

操作性審査と同日にプレゼンテーションを実施する。詳細は次の通りである

- (a) 実施日 令和 6 年 3 月
- (b) 場所 仙台市生涯学習支援センター
- (c) 時間 30 分（説明 20 分 質疑応答 10 分）
- (d) 説明者 説明は、本業務のプロジェクトリーダーが担当すること。なお、他の者の同席は 3 名まで認める。
- (e) 説明 説明する内容は、提出した提案書類に沿って説明する。追加資料の配布は認めないが、提案書要約のスライドを用意するのは可能とする。
- (f) 使用機器等 プロジェクター、スクリーン、レーザーポインタは本市が用意する。ノートパソコンは持込可能。

- (g) その他 プレゼンテーション終了後、引き続き、技術提案書等の内容について、必要に応じ、提案書に対しヒアリングを行う場合がある。ヒアリングは技術提案書等の内容の理解を補助するためのものであり、技術提案書等に記載されていない内容を評価するものではない。

(7) 技術提案内容の評価

技術提案内容の機能、性能及び技術の評価については、下記の「5 評価基準」、「6 提案書の審査方法」により、本業務に対する理解度や提案の具体性・合理性等の観点から評価するものとする。

5 評価基準

技術提案評価点の評価方法は、以下のとおりとする。

(1) 評価項目の設定

技術提案書の評価項目及び配分点については、本業務の目的や内容に応じて必要性・重要性を考慮し、次のとおり設定する。

<書面審査（技術提案書審査）>

ア 本業務の取組方針	100 点
イ 本業務のスケジュール	10 点
ウ 本業務の作業内容・成果物	10 点
エ 次期システムの基本方針	100 点
オ 次期システムの機能要件	10 点
カ 基本要件（必須）	215 点
キ 基本要件（推奨）	628 点
ク 追加要件	200 点
ケ 次期システムの非機能要件（基本要件）	10 点
コ システム環境要件	100 点
サ 情報セキュリティ要件	100 点
シ 構築に関する要件	200 点
ス 移行に関する要件	200 点
セ 教育に関する要件	100 点
ソ 初期運用支援に関する要件	100 点
タ 保守運用に関する要件	100 点
チ プロジェクト管理方法	10 点
ツ WBS・スケジュール	100 点
テ 業務の実施体制	100 点
ト 品質管理・リスク管理	100 点
ナ 情報セキュリティ要件（認証・実績）	10 点

二 認証資格の取得状況	100 点
ヌ システム導入実績	100 点
ネ 業務従事者の保有資格・条件・経験	200 点

上記評価（ア～ネ）を行い、合計の得点を満点（2,903 点）で除した値に対し、書面審査の配点（2,800 点）を乗じた得点を与える。なお、この計算の結果生じた端数は切り捨てるものとする。

書面審査に係る得点＝2,800 点×（合計の得点／満点 2,903 点）

なお、上記得点に操作性審査（200 点）を加えて技術提案評価点の合計とする。

（2）評価基準の設定

別紙「総合評価基準表」のとおり評価基準を定め、評価の主な視点を設定する。

6 提案書の審査方法

提案内容に対し委員会は原則として次の方法により審査を行うものとし、その他必要に応じ資料等について入札者に確認を求めるものとする。

（1）書面審査

技術提案書及び補足資料の内容を確認する。

（2）プレゼンテーション

技術提案書に沿ってプレゼンテーションを実施すること。

なお、プレゼンテーションは技術提案書の理解を補助するためのものであり、技術提案書に記載されていない内容を評価するものではない。

（3）デモシステム

選考審査の対象となるため、職員が利用できるデモシステムを準備すること。

（4）質疑応答

プレゼンテーションの後、技術提案書の内容に対し、質疑応答を行う場合がある。

また、必要に応じて提案者に対し提案に関する説明を求める。